

「標茶町行財政改革推進計画」町民説明会

－ 議事録 －

1. 日 時 令和 8 年 5 月 18 日（月）午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分まで
2. 場 所 磯分内酪農センター
3. 出席者 【参加人数】 33 人

【町役場】 町 長 佐藤 吉彦
副町長 牛崎 康人
企画財政課長 齊藤 正行
行財政改革推進室長 内藤 政夫

4. 会議内容

- (1) 開会
- (2) 開会あいさつ
- (3) 説明
- (4) 質疑応答
- (5) 閉会あいさつ
- (6) 閉会

5. 会議経過

- (1) 開会 午後 7 時 00 分
- (2) 開会あいさつ

次のとおり町長よりあいさつを述べた。

本日は、「標茶町行財政改革推進計画町民説明会」に、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

現在、標茶町では、人口流出や少子高齢化による過疎化の進行、それに伴う人手不足、公共施設の老朽化など、さまざまな課題を抱えております。これらの課題は収入の減少や維持経費の増加につながりますが、加えて、近年の物価高騰などもあり、町の財政を取り巻く状況は年々厳しさを増しております。

こうした中、このまま、これまでと同じ形で事務事業や財政運営を続けていくことは、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていく上で大変大きな問題であることから、令和 7 年 6 月 16 日に「標茶町行財政改革推進計画」を策定いたしました。

この計画を策定し実行していくことは、現在の町の状況や課題を町民の皆さまと共有しながら、厳しい状況を乗り越え、これからの標茶町をより良い方向へ進めていくための取り組みであります。

そして、行財政改革は、行政だけで進めるのではなく、町民の皆さまとともに考えながら進めていくことが大切であると考えております。

計画策定から 2 年目となる今年は、より具体的な取り組みについて、皆さまと意見を交わしながら、将来に向けた基盤づくりをしっかりと進めてまいりたいと考えております。

行財政改革という言葉を聞くと、「削減」や「見直し」といったイメージから、不安を感じられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、それは単に何かを減らしたり、なくしたりすることが目的ではありません。限られた財源の中で、本当に必要なサービスを将来にわたって維持し、次の世代につないでいくための取り組みであります。

そして、見直しによって生まれた財源を活かしながら、ふるさと標茶がこれからも「元気なまち」であり続けられるよう、将来への投資にもつなげていきたいと考えております。

本日は、なぜ今このような取り組みが必要なのか、また、標茶町の現状や今後の方向性について、できるだけ分かりやすくご説明し、皆さまから率直なご意見やご提案をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 説明

「標茶町行財政改革推進計画」の概要について町長より説明。

(4) 質疑応答

次のとおり参加者の質疑に対し回答を行った。

【プライバシー保護及び個人情報保護の観点から、個人名や固有名称は表現を変更しています。また、録音品質により聞き取りづらい部分などは最低限の補筆を施しています】

行財政改革推進室長：

お名前以外の部分なんですけれども、こちらの方を後ほど全地域合わせまして、公表を予定しておりますので、記録を作成するにあたりまして、録音をさせていただくことを事前にご了解いただければというふうに思います。

録音の方をさせていただいてもよろしいでしょうか。

参加者の声：

いいですけど、それは、さ、あのカットしないで「とる」っていうことですね。

行財政改革推進室長：

はい。お名前の部分は載せないんですけれども。

参加者の声：

言ったことすべて公開を。

行財政改革推進室長：

内容の部分につきましては、録音されておりますので、よろしく申し上げます。それでは、最後の説明につきまして、ご質問、ご意見等ある方は挙手の方をお願いいたします。

参加者①：

はい。

えーと、私、この文書を見ましてね、これはもう最初からもう言ってることと、今までやってたことはあまりにも異なっていました。

私はね、すでにある一般の人に聞いたんですけれども、この全てはね、これからは潰れていくぞ、第二の夕張みたくなりますよということを伝えてきました。

例えば、1つ述べられましたバス 1つ見てもね。私たちが乗るその朝、私たちは月曜日乗るんですね、バスを乗って。今我々がしたいのはいろんな用事をするんですけれども、何もね、人の通らないところをね、どうしてあのバスが走るのかということ。運転手さんに言ったってね、運転手さんは役場から言われている通りやっているわけですよ。

こんなね、今までこれだけ無駄なことをしてね、今になってね、こういう文書を書かれて私は納得いきません。

ふれあいもそうです。煌々^{こうこう}とね、電気はもう、もうこのね、今もう大変な時代に、一般の人はね、もう 7 時過ぎまで電気つけませんよ。

あのふれあいに行ってご覧なさい。もう電気があり余っているような贅沢ざんまい。そして 2 階なんか行ったらそんな円形のやつ 6 つもつけてます。

あんなものをね、無駄な金を使って。言え言ってもね、私が訴えても聞いてくれません。

で、先週、いつでしたかね、先月ですね、ふれあいにいる職員に言いました。私ね、その電気をね、そんなに無駄にしないで節約、節約したらどうですかってね。一般の家庭の人は 7 時過ぎまで電気つけませんよ。

そしたらね、この職員はなんて言ったと思う。一般の人はどう思いますでしょうかって言うから、一般の人は納得いきませんよって言って、あなたのお家は煌々^{こうこう}とこうやって電気つけてるんですか って言ったんですよ。

それで無言でした。言え言ったなりにね、受け入れてくれません。

これはね。私たちはみんな公務員だから、何があってもきちっとしたお給料もらえます。一般の人はそうじゃないですよ。汗水流して初めて収入を得るわけですよ。

お前たちの面倒は俺たちが見てるっていう感覚なんですね。もうはっきり言ってね。

佐藤町長からしてそうですから。

はっきり言いまして、私はこの人が令和 1 年になった時に、私はいろんな問題で訴えに来ました。無言ですよ。

やっぱりね、行政っていうのはね、一般社会で言えば売り子なんですよ。

私たちはお客なんですよ。これ逆なんですよ。

職員なんかね、逆にね、脅迫してみたりね、そういうね、生きざまをしてこんな文書書かれて、私たちは納得できませんね。

何もね、通らないところですよ、ここね。この通りは、磯分内も 15 分で来るんですよ。

あのね、なんだか知らないけど、この山みたいなところ通ってですよ。

そうしてなんだか知らないところ、ずっと人も乗らないところ。

そういう無駄なことをね、散々やってきて、それもね、町民も訴えないんであろうなら別ですよ。

私なんかどれだけ訴えても受け入れてくれません。

私はね、これね、いろんなね、福祉にしたってね、私たちはね、何も、いい思いをしてこれだけ赤字になったんだってならわかります。

何にもいい思いしてきません。福祉は。ふれあいの 2 階の温泉だってね。

まだ歴史も 25 年しか経ってないんですよ。それも説明も何もなくしてね。

閉めちゃうわけですよ。

その人間たちはどこに行くかという、デイサービスを利用しているわけですよ。デイサービス一般の人はね、一般の人は 1 割負担なんですよ。3,000 円なんですよ。3,000 円を国が半分、標茶が半分なんです。

だから国のお金だからどうでもいいやっていう感覚。

そして役員だけぼんぼこ増やして、天下りもいっぱい入れて。

例えば道路なんかでも、穴開いたところの舗装なんか見てもね、この私のも

ね、コールタールが少ない。コールタールっていうのは接着剤の役目を果たすところなんです。そうじゃないんですよ。だから毎年同じところを工事してるわけですよ。

やっぱりそういうものもね、最高責任者の佐藤さんが見て歩くとか、大した距離がないんですから。そんな仕事あるわけではないんですからね。

高市さん、今の総理大臣みたいに。そうしたらやるべきなんですよ。

何もしてないんですよ。生命と財産何も守ってくれてないんですよ。

こんな見どころないとか誰が住みますか。ね。こういうような私、今も生活してます。

やっぱり行政っていうのは、住民の生命と財産を守るのが基本なんですよ。

何にも守ってませんよ。

佐藤さんに何回も私訴えます。訴えてますけれども。それで今更だってね、今度はこうだあだって言ったってね、納得いきません。

私はね、やっぱりね、やっぱクレームがあつたらね、やっぱりそれをね、直していくということしないんですよ。逆にね、責任逃れしてくるんですよ。私の今住んでる家はね、町で建てて町で設計して、図面も全部作り上げて、まともなお家になってませんよ。

お風呂場のところだってあれなんですけど、洗濯機の置くところに穴がないから、お風呂場はこうしてホースでお風呂場に持ってきてるような、こういうね、やり方をしてるような組織なんですよ、この標茶っていうところは。

で、私もね、ここで生まれ育った人、あ、これは当たり前だと思うかもしれないけど、やはり地方から来ているからいろんなものが目に見えるわけですよ、そういう人たちをね、大事にして----

参加者の声:

すいません。

あの、発言の内容をもっとまとめるってことでどうですか。発言する時間をきちっと明記してね、何分以内で言ってくれとかなんて言わないと。

いろんな考えの人いますよね。いろんな人の考えを。

参加者①:

私ね、納得いきません。

参加者の声:

独演会じゃないんだから。締めてね、司会進行お願いしたいと思います。

参加者①:

いいんですか。

参加者の声:

個人のね、要求をのむものが行政ではなく、町民全体の利益を守るための・・・

参加者①:

あなたはね、あなたはあなたの意見があつて、私は私の意見があるから。

参加者の声:

あなたの意見がおかしいから言ってんだよ。

参加者①:

おかしくないです。あなたがおかしいって言う方がおかしい。いろんな人間がいるから・・・

参加者の声:

時間に限りがあるから一人ばかりじゃなくて、みんなで喋ってもらう。
ちょっと1回、1回ちょっと休んで。

参加者①:

私はこれ、あれですよ。標茶だけではダメです。

私ね、弟子屈とね、弟子屈の徳永さんが賛成するかどうかわからないけれども、やっぱり合併した方がいいと思いますね。私はそうすれば生き残っていけると 생각합니다。

副町長:

はい、ありがとうございます。

参加者①さんからご意見いただいたんですけれども、あの、やっぱり冒頭のですね、第2の夕張になるよっていうお話ですね。第2の夕張になるよっていうお話を聞いたということなんです、今まさにそういうふうにならないためにみんなで取り組んでいきたいということをお話をしております。

それから・・・

参加者①:

今まで家たててきたんじゃないのか。

副町長:

それから、私たちは、あのね、自分たちが皆さんに何かして、俺たちが何かするんだっていうスタンスで仕事してる職員は基本にないというふうに私は思ってます。

ただ、目に余る言動がある時には私におっしゃっていただきたいと思います。すぐに注意指導をしたいと思います。

それから、行政サービス、もしかするとその他行き届かないところがあるのかもしれない。

道路の穴の話とかいろいろありましたけれども。

そういったところもですね、役場はもちろん、事業者の皆さんにも町民の皆

さんのお力を借りながら、少しでも早く直していくということを心がけて、心がけておりますし、これからもそうしたいと思いますので、まずはご意見を聞きたいというふうに思います。

ちょっと長いご質問に対しては簡単すぎる回答かもしれませんが、そういうことでご理解いただきたいと思います。

参加者②:

参加者②です。

近いところで大規模の関係でお願いいたします。非常に厳しい状況だと思う。先般の新聞広告欄も気がつきました。そんな、とてもじゃないけれども、厳しい財政不安は、全く見えないということです。

というのも、この数年間の中で、もう標茶でも一番、バンカーサイロ、相当な大規模の相当なコストがかかる。見ても分かります、劣化もしています。

今現在ですら全く使われていない、というのは、それだけの物が入ってない。それだって大きな問題があるだろうということで、その後、ここでもですね、ずいぶん牛舎も新たに建てています。

その姿を地域で見ている、とてもその厳しい状況の牧場だとは全く思えません。あまりにも将来的に全部こういうふうに見据えて、それだけの投資をしているのか。

これを見ても、なかなかその具体的に何が問題でどう解決するかっていうのがなかなか見えない。

町政だよりを見ても、必ず牧場では求人広告をずっと出しっぱなしというか、それだけ集まってないようにしか見えません。

そういうようなことを考えたときに、あれだけの施設を整備し、そしてそれを維持する人も求人をしてなかなか集まらない。

本当に将来的な牧場の在り方をできたら示してほしいと思います。

副町長:

今この場でですね、将来的な牧場の在り方ということを論ずることはできないんですけれども、参加者②さんご承知のとおり、これまでも私たち標茶町育成牧場は町内の農家さんの経営のために役立ってきた施設であったというふうに私は思います。

それは今は民間の施設もたくさんできてきている中では、比較をすると割安な料金で牛を預かり、丈夫な牛に育てて返すということをしてきたと思っているんですけれども。

そういった意味で、基本的には何らかの対策がこれからも必要です。

何というのは、今の役場の中の議論をしております。

ただ、ご指摘あったようにですね、求人をしてなかなか人が集まらない。

これは育成牧場に限らず、町役場本体もそうですし、それから病院ややすらぎ園とかもそうですし、あるいは公的な部分だけではなくて、いろんなところで、なかなか必要な作業に当たる人も確保できないという状況でもありますしそれから特に最近、世の中が人件費をしっかりと確保するという流れになって

いる中で、公務員の賃金とか給料が上がっている中で、交代制職場の運営というのを公のセクションが担うのが果たしてどうなのかというところで、そこについても今大事に議論をしているところであります。

先ほど町長の説明の中でもですね、例示として挙げたのは病院であったり、やすらぎ園であったり、育成牧場だったんですけども、そういったところ、町がこのまま担うのがいいのか、あるいは民間の力をお借りするのがいいのか、あるいはそういったところで適切なお願いをする先があるのかどうか、そんなことを今議論をしております。

必要なんだけど、一番いい運営の方法が何かというところをその着地点を探していくところであります。

これについてはもう少し具体的な内部議論をしながら、あるいは議会のご意見も取りながら進めていきたいなというふうに考えております。ということで、ちょっとまだね、具体的な将来像というところにはなっていないんですけども、今後どうしようかというところを議論しています。

参加者②:

1 点だけお願いします。

今、何頭ぐらいが牛が飼育されているのか、そのうちの町外、相当な牛の数を飼育していると思うのですが。町内牛と町外牛、その辺の比率というのはどの程度ですかね。分からなければ・・・

町長:

あとで調べてお知らせさせていただきます。よろしいですか。

※ 1

最近はですね、町外の預託の牛はかなり減ってきています。以前はかなり増えていたんです。

最終的にはやはり町の公共施設ですので、可能であれば町内だけの牛に、本来はすべきなんでしょうが。

ただ、過去にいきさつがありましたので、本当に私たち標茶町の牛が少ない時に、そういった牧場の牛を預けてですね、経営の支援になったということも過去に聞いていますので、そういったことも含めてですね、今やっていく、というふうに思います。あとで具体的な推計はします。

参加者③:

参加者③と申します。このようにたくさんの資料を作られて大変だったと思います。現状がよく分かりました。ありがとうございます。

※ 2

私が思っていることは、何か変だなと思っていることを説明してほしいと思っていることで、原因究明の範疇で、ちょっとお聞きしたいことがあります。

行政運営への強い批判があります。それと、財政運営への疑念というのがあります。情報公開を求める意見表明という、この 3 点についてちょっと意見したいと思っています。

※ 1 令和 8 年 5 月 18 日現在、2,269 頭のうち町内牛 1,929 頭、町外牛 340 頭。

※ 2 下線部分、音声の一部が不明瞭のため実際の発言と異なる可能性あり。

違法行為があったのかという点について、特定業者への利益供与があったのか、それと不正入札、キックバック、横領、公金私的流用、虚偽会計などなかったのかなというところです。それは大丈夫だったのかなというふうに思っています。

標茶町立病院の赤字というのは経営不振に直接繋がらないんじゃないのかなと思っています。

それは北海道の地方公立病院の慢性的な赤字の原因として、医師確保の費用が高いです。それと救急の維持、人口減少ですね。それと高齢化、そして医療機器更新、いわゆる建築工事の高騰など、赤字の原因、慢性的な赤字の原因というのは以上、挙げられると思います。

これは標茶町に限らず、全国地方の病院の赤字の理由というふうに思います。標茶町だけがそうだとということではないと思うのです。

赤字経営だからといって、看護師を減らしたり、給料を下げたりする、また時間外を許さないなど、そういったことは得策ではないと思っています。

ますます医師を増やし、看護師を充実させ、ということは必要になってきます。

この先、標茶町で安心して暮らせるまち、命を預けられるまち、として機能したいのであれば、そういうのは得策ではありません。ただし、業務の見直しというのは常にやっていかなければならないというのは肝に銘じております。

まず、病院は人間の最後の砦ですので、そういうことだけは忘れないでほしいなと思います。

将来の日本を担う子供たちの小学校、中学校、高校の給食を減らすとか、教科書、補助教材、ドリルなどをやめるとか、そういったようなこともあまりいい得策にはなりませんので、ぜひより良い大人に成長していただくためには、この辺のところをもうちょっと充実させる方向にお金を使わせていただきたいなと思います。

怒りのポイントっていうのは、破綻が見えていたのに高額投資をしたか、説明責任が曖昧、いわゆるその全ては住民負担になります。ま、この辺は納得がいかない。

重要なのはここからで、金銭出納帳の公開を求めます。

自治体の会計は、住民監査請求や情報公開請求の対象になります。情報公開請求、議会議事録確認、決算資料確認、監査報告確認など見せていただきたいなと思います。

まずは人を減らしてよりよい・・・はありません。はい。

また、ふるさと納税、鶴居村に負けて1億3,000万。この大変素晴らしい商品を生む標茶町がなぜ1億3,000万なんですか。はい。ヨーグルトも美味しい。チーズも美味しい。そして牛乳も日本一です。ミート缶も日本一ですね。

こちらに移住してきて8年経ちますけれども、私の友人、全国の友人にミート缶はヒットですので、しょっちゅう送ってます。なぜこんなに少ないのか、ここも疑問です。

昔、標茶は鉄道は中心地点でした。ここがポイントです。

ですから、釧路から弟子屈方面へ行く通過点であり通路である、という風に

言われましたけれども、決してそうではありません。標茶町が中心です。

標茶町を中心として方々に流れるその真ん中に位置していますので、という風に私は見ていました。ここ入ってくる時にですね、調べてました。

標茶は中心なんだというつもりでいましたけれども、通過点だと言われて残念に思っております。

標茶町の悪しき風習などをなくさなければ、黒字の右肩上がりというふうにはなりませんので、今後の対策など、計画などを期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

町長：

えー、すいません。多岐にわたるので、もし、回答が漏れたら言ってください。

先ほど最初の方で、町の問題があったのかという部分では、あの基本的にはないというふうに思っています。

ただ、直近で、役場以外の団体のお金を一部着服したということで、懲戒処分をした事例はあります。それは新聞でも公表になったので、その職員は退職をして、という状況になります。

それ以外については、例えば公金横領とか、入札の不正な取扱いがあったとか、そういったことについては、私が町長をやっている間は一切ないというふうに理解しておりますので、ご理解いただきたいと思います。

それからあと、町の情報公開とか出納帳の公開については、いつでもどなたも、町民であればいつでも請求できますので、もし必要があれば手続きをしていただければと思っております。

それからあと、病院関係についてはですね、これは、やはり標茶町は、町立病院、唯一の医療機関です。

やはり、あの、町民の皆さんの命を守る、最前の場所だと思っておりますので、私としてもできる限り維持をしたいと思いながら、今いろんな話をですね、病院の関係者と調整をさせていただいている中でですね、やはりただ、現在の病院会計の、例えば年度の令和7年度、約9億円を超える赤字です。

それを実は一般会計から繰り入れをしながら、赤字を、ないような形で運営をしているという、状況なんです。

ここをできるだけまあ少なくするというか、町が一定程度、今まではある程度財政的な調整ができたので、それもある程度までできたんですが、ここに来て、やはり病院会計もそうですし、やすらぎ園もそうですし、育成牧場もそうです。そういったところも維持するための持ち出しが非常に多くなっているんで、まずは全体的に見直しをさせていただけないかということを実は話をしています。

その中で病院をなくすのではなくて、最低限町にとって困らない形の、例えばこの診療科目を、当面やめようとかですね、そういうことをしながらなんとか維持をするということは今できないかなということで、今検討していますので、決してその病院を今までのをなくすとかいうのではなくて、ただこれは、病院はですね、国はいろんなことを言ってますけれども、基本的にはあの

地域の医療の再編の中では標茶町は無くなる話です。国から言わせると。

ただ、人口が規模とかそんなの一切関係なくですね、そういう状況の中でただ唯一の医療機関としてどうやって残せるかということを皆さんと検討していきたいと、そんなふうに思っています。それから、教育関係の部分の予算については、これは私はできる限り、まあいろんな創意工夫はしてもらいます。

学校関係とはいえ、やはり無駄な部分とかいろんな部分ももちろんありますので、そういった部分をしっかりやってもらいながら、今の教育水準、まあ学校だけじゃなくて保育園のことも含めてですね、維持をしていただきたい。

そんな形で今作業をさせてもらっているところでもありますので、ご理解をいただきたいと思います。

それから、ふるさと納税については、実はもう私が町長になってから、ふるさと納税を始めました。もっと前からやっていれば、もっといろんな形で受け入れたんじゃないかなと思いつつもですね。

ただ、なかなかあの海産物のある地域とかそういったところは非常に本当に何十億、多いところで 100 億、200 億、本当にトップだと超えているところがあるんですけども、なかなかあのそういったコマーシャル、PR 含めてですね、増えている部分があるのは事実であります。去年は先ほど言われた通り、まあ鶴居に負けて 1 億 3,000 万だったんですね。

※3

今年はさらに去年よりプラスになって、まあ 1 億 6,000 万くらいと、昨年より少し伸びているという形で、なんとか担当含めて頑張らせていただいて、さらに今年もっと増やすように、担当を含めていろんなところで実は PR をさせていただいたりですね、例えば SL に来たお客さんに、ふるさと納税のパンフレットとか標茶の PR 用のクッキーを配ったりとかですね、そういったことも実は私、直接駅でさせていただいたりとかですね、そういったことで標茶に関わる人に直接アピールするというか、そういうことを今やらせていただいていますので、その点は。

まあ、ただもう一つは、今、これまではふるさと納税は役所中心にやっていた、事業者の皆さんがやっていたんですけども、この今年には実はいろんなところで私がお願いしているのは、町民の皆さんにも実は協力していただきたいということを実はお話ししてます。

皆さんの中で標茶町に住んでる人はふるさと納税をちょっとできないんですけども、皆さんの友人知人で標茶町外に住んでいる中で、もし声を掛けられる人がいましたら、標茶町のふるさと納税の PR を一人でも二人でもしていただければ、少しでも伸びるんじゃないかということを、いろんなところで実はお話をさせていただいてますので、もし機会があつてそういう方いらっしゃったらですね、もし皆さんもですね、積極的に PR をしていただければ、ふるさと納税が少しでも伸びるんじゃないかと思いますので、是非ご協力をいただければと思っております。

参加者③:

あの、例えばミート缶なんですけれども、安定供給ってできますか。声をかければかなりの数買ってくれる人はいます。

ですけれども、調達するのがとても苦勞するんですよね。ですから、安定供給っていうのもまた人が必要ですし、場所も必要です。

設備もしょっちゅう工場が機械が故障するようなんですけれども、やはりそこに投資するっていうつもりもあるのかなとか、声かけられる状況にしていだけたら嬉しいと思います。

町長:

ミート缶は農協さんでやっていることなので、農協の組合長にお話ししますが、最近何か賞をもらったりしてですね、結構また注目もされたりしていますので、お話はぜひ伝えたいと思います。

参加者③:

ありがとうございます。

参加者④:

参加者④です。

補助金の規制の部分で、補助金等の適正の部分で基準を作って見直しを図るということなんですけど、先ほど町長が歳入に見合った歳出に変えて貯金の切り崩しはやらないというような方向性ということは、人口が減っていったらすると、交付税とかが減ると必ず歳入って減っていくと思うんです。

それに見合った支出ということは、補助金も減らされるという恐れは必ず出てくると思うんですよね。

そうなった時に、今の自治会の振興補助で、うちの町内会で今ちょっと一番頭を抱えているのが電気代、電灯の電気代金なんですけど、町内会の会員数も減ってきている。

町内会の収入も減っている中で、補助金を減らされるっていうことになる、最悪電灯を打ち切っていかなきゃいけないっていうことが恐らく近いうちに発生してくるんじゃないかと思うんです。

そうなってくると、地域住民の安全の確保にも問題が出てくるのかなというふうに思いますので、そういった状況に見合った基準を作っていて、見直しを図っていただければなというふうに思っています。その辺どうでしょうか。

多分、今年あたりの補助金の削減という話は聞いていませんで、今年はないと思うんですけど、多分将来的にはそれ必ず出てくると思われますので、そうなった時に先ほど言った人口減少で町内会費も減るという中での電灯の維持とか、切れた部分の交換作業、今 LED でないと交換できないということなので、古いのが壊れてくると必ず LED に変えていかなきゃいけないっていう部分も、それでもうんと町内会の方、1本直すと2万ぐらいかかっています。10本直すと20万になると、町内会費30件分ぐらいの金額になるものですか

ら、そのへんのことも含めて検討いただければというふうに思っています

町長：

補助金についてはですね、今年から実は一部 2 割削減をさせていただいてますが、自治会振興補助金については削減は今年はしておりません。

もちろん、地域の皆さんが困ることは十分わかってますので、そういったところとか、例えば補助金の中心が、例えば人件費で大半が賄われているとか、そういう部分については一切手をつけないで、今まで通り事業ができるように配慮しながら、藪から棒に一律にやるっていうことではなくてですね、中身を確認しながら実はさせていただいています。

ただ、これから先も含めて、やはりお互いに削減できる場所がお互いにないかとかですね、そういった形で創意工夫していただけないとか、LED 替えてきて、電気料の削減を図っていくとかですね、そういったことをですね、お互いにやはり、そのためにもこういったことをオープンにしながらですね、一緒になってぜひ考えていただだけませんか、ということが実は今日の目的の一つでもあります。

それから先ほど歳入に見合った形でという、今までの考え方の違う形の財政運営の話を少ししましたけれども、今まではいろんなところから必要な予算要求が出てきて、150 億必要ですよというときに、実際に町のその規模として実際に入ってくる額が実は 130 億しか実は標茶町の能力がないのに、実は 150 までの希望があるので、実は事業をやってきたというのが事実なんです。

ですから、今度は逆にして、実は 130 までの町の能力がしかないのであれば、できるだけ 130 に近いような形の、歳出も抑えていって、まちづくりをやりましょうということを今、行革の新しい方向性の中では実は考えている。

そうしなければ、いつまでも基金を、貯金を頼りにしながら財政運営をやらざるを得ないというのが実は今までのずっと何十年も標茶町の財政運営ってそういう形で実はやってきたんですね。

ただ、それは一定程度国からの交付税があつたりとか、税収がある程度人口が多かったときにその部分があつたりとか、そういったものもあるんですけども、これから先はそういうのが見込めなくなるというふうに思ってますので、そうじゃなくて、基本的な考え方もしっかり変えながら、やはり入ってくるお金を確定しながら、それに見合う仕事をしっかり、いろんな選択もしながら、優先順位を皆さんと相談しながらやっていくことが一番なんだろうなというふうに今考えて着手しているところです。

参加者⑤さん：

先ほど投資的事業とかで宿泊施設、温泉、宿泊施設、ぽん・ぽんゆのことだと思ふんですけども、間違いないでしょうか。

副町長：

説明資料の中ではぽん・ぽんゆもそうですし、それから私たちが言っている投資的経費というのは、それ以外に道路であつたりとか、そういったものが全

部含まれています。

参加者⑤さん:

ぽん・ぽんゆも含まれている。それであればですね、収支がどうなっているのか、ちょっとお聞きしたいんですけど、今わかります。具体的に分かなければですね。

赤字になっていると聞いてはいるんですけども、この赤字を町で補填しているという話は本当でしょうか。

副町長:

ぽん・ぽんゆは指定管理で運営しているんですね。それで指定管理者に指定管理料というものを支払う、支払いをして、それを元に運営してもらうというシステムで、赤字補填ではないんですけども、指定管理料というお金はお支払いをしておりますので、計画上は最初の 3 年間はプラスマイナスで言うとマイナスが発生するということで、指定管理をうまく使ってもらいながら黒字体質に切り替えてもらうというような、そういう計画です。

えっと、すいません。結局ですね、7 年度なんですけれども、7 年度については 1 億 6,400 万円ほどの売上があって、そして経費については 1 億 7,100 万円かかっていますので、670 万円ほどマイナスになっております。

※ 4

これが指定管理費を含めてなんですけれども、その部分については指定管理者側の方で負担して、これについて計画的には 3 年以内、3 年間で黒字転換していけるという、そういうことになりますので、実際ですね、7 年度後半からは客室の回転率が高く、高い数字が出てきておりますし、それについては今のところは心配はしていないところでもあります。

参加者⑤さん:

3 年たつと黒字になって、経営はいらなくなる。

副町長:

指定管理費については、一定程度町が直営でしなければいけない経費、少なくともかかるということでは、指定管理については支払いを続けるという仕組みになっています。

※ 4 税抜金額での回答である。令和 7 年度は 1 億 8,115 万円(税込)の売上げに対し、経費は 1 億 7,100 万円(税込)で、740 万円(税込)の赤字。このマイナス分は運営会社側で負担してもらうこととなる。また、収益が出た場合は、利益の 20%を町に還元してもらう仕組みとなっている。5 年契約のうち 1 年目は指定管理料 3,800 万円を支払っており、以降の指定管理料については年 3,200 万円を支払っている。詳細について、別添資料としてホームページに掲載。

参加者⑤さん:

それであれば、標茶町民に対する費用対効果というのは、そういう面ではいかがなんでしょうか。訪れている人たちがね。町民なのか、町外の人なのか。

当然、町外の人が多いとは思いますが。そういった人のために町からお金を出して、お金のない団体がここまでやる必要があるのかなと思う、というところがあります。

副町長:

ご指摘のとおりのところはあると思います。

実際、宿泊客の入浴についても町外からお越しいただくことは非常に多い。

宿泊については、えーと、ほぼ 100 パーセントに近い、97%が町外、3%が町内ということになります。

えーと、そういったところなんですけれども、あの、ではなぜその町税を投入してまでやるのかというご質問だと思うんですけれども。えっと、やはりですね、あの、湿原を中心とした観光というのはこれからも、高く評価できるので、これからの部分もあるというふうに思っていますし。

それから、宿泊業を行うことによって出てくる循環というの、少なからずあるというふうに思っております。

ここに来る目的があるというところで、来た方がですね、標茶町の中で、過ごしていただくとか、いろいろな部分とですね、連携効果があるというふうに思っておりますし、そういったところを生かしながら改修したホテルでもありますし、それから、今後もそこからしっかり効果を上げていきたいというふうに思っております。

それから、えーと、町民の利用率が低いというのが、議会の方でもご指摘をいただいているんですけれども、指定管理者の方とも話をして、町民の利用率を高めるために、それから、町民の皆さんに喜んでもらえるために、というところでは、まだまだ規模は小さいんですけれども、実績としての規模は小さいんですけれども、町民の格安料金で利用することができるようにしたりとか、そういった、事業内容についてですね、指定管理者と協議してよい形で進めたいというふうに思っております。

あのご指摘についてはしっかり受け止めてですね、これからも研究していきたいというふうに思っております

参加者⑤さん:

分かりました。

ありがとうございます。

参加者②:

ちょっと関連します。

その指定管理料というのは定額なんでしょうか。赤字補填なんでしょうか。

参加者⑥:

赤字補填です。

参加者②:

指定管理料。

参加者⑥:

答えます。いいですか。赤字補填を約束した価格の指定管理料。

山奥にある観光施設は、民間の努力だけでは黒字化が難しいため、町が指定管理者、現在、共立メンテナンスグループとの共立ソリューションズの運営を委託しております。

しかし、町は運営を続けてもらうために赤字が出たら町が税金で補填するという非常に手厚い価格の条件で指定管理料を支払う契約を結びました。

観光客が集まり、黒字になれば町の負担は減る。

しかし、思うように客足が伸びなかったり、燃料費光熱費が高騰したりすると、その赤字分がそのまま指定管理料の追加として標茶町の重い財政負担になります。以上です。

参加者②:

間違いないでしょうか。

副町長:

それはどこからの引用ですか。

参加者⑥:

引用は間違っていないと思っております。

私ずっと調べておりまして、ぽん・ぽんゆだけじゃなくて、まとめの町を襲う負のループというもので、ずっと調べておりまして。

えーと、まさにこれが今間違いであるというのであればですね、あの、施設の運営のイン、アウトを町民に公開していただきたいと心から申し上げます。

間違いではありません。私はこっちを信じていますけどね。

いろいろなところから集めた情報が今 AI で統合しまして、全てが正確に表示されます。私はそのそちらの方に間違いがあるとは今のこの AI の技術で思っておりませんので、公開さえしていただければ全て確信がいくのではないかと考えております。どこからの引用と言われると、これはいろんなところの情報を基に AI が作成したものでございます。

※ 5

副町長:

間違いです。あの赤字が出て、そこに補填をするという約束ではないです。

っていうのと、定額です。で、業者選定のときに、今回は指定管理料いくら必要かということも含めて提案があって、その中で例えば人集めの確実性であ

※ 5 下線部分、音声の一部が不明瞭のため実際の発言と異なる可能性あり。

ったりとか、あるいは事業実績であったりとか、そういったことも含めてですね、一緒にいくらならできる、ということを提案をもらいながら業者選定をして、その後その制度で決定した業者と具体的な指定管理料の協議をしました上で決めております。

※6

えっと、ちょっと今金額、すぐに手元になかったものですからね。申し訳あげられないんですが、1年目はいくら、2年目はいくらという感じで決まった金額でやっていくことになっています。

参加者②:

この指定管理料というのは、結果的にその期限というのがあるんですか。何年間ですとか、あるいは黒字化になった時に、当然契約ですんでね、当然しっかりある思うんですけれども、年次的な契約なのか、あるいは成功報酬という形で収支の結果が。

副町長:

指定管理の期間の契約はですね、一応今の業者とは5年間という契約を結んでいまして、その5年間については指定管理料のほうは先ほど言ったようにですね、払うことにしております。

それから、収益が出た時については、一定割合を返納してもらおうという形でですね、指定管理料を少なくするということが契約上はとっています。

参加者②:

ちなみにその指定管理料っていくらなんですか。
契約だと、わかんないわけじゃないの。

※7

副町長:

すいません。数字をしっかりやっとしてしっかり覚えてなくてですね。年額3,200万ということで。

参加者②:

3,200万を5年間。

副町長:

はい。

※6 ※7 14 ページ下段の※3を参照

参加者②:

その後、ということを考えるとね。当然 5 年で契約が終わりますよ。町としてもね。

そういうふうなことも含めて、十分今の施設で経営を続ける、それは民間の所得にお任せをするということなんだろうけれども、5 年過ぎたらね。突然閉館とか、民間なんてそういうのもあってね。合わないところでボランティアになります。町はボランティアでね。しっかり運営するんだろうけども、民間はね。それでもじゃないけれども、余裕もある。

まずはなんとかね、来年が中間、なのかね、続くように期待をしておりますので、よろしくお願いします。

副町長:

はい。あの、さっき言ったようにですね、最初の 5 年間の指定管理契約の中でどこまで成績を上げられるかというところについては、注視をしておりますし、それから期待もしております。

で、5 年終わった後に改めて指定管理者を選定するという更新の作業が出てくるんですけれども、そこはどこになるかというのは、今、大変検討がつかない状況であります。

もしかすると、ここでそうなるかもしれませんし、新たなところになるかもしれませんけれども。

まあ指定管理費用をどこまで下げれるのかというのは、我々の大きな課題だというふうに思っております。

参加者②:

つまり、5 年契約だから、5 年で一回そこで契約を終わって再契約をするということなんでしょうかね。指定管理料。

副町長:

そことの再契約という約束じゃないんですけれども、再度指定管理者を選定するという作業にすることです。

参加者②:

そして、指定管理料というのを新たに設定をする。ゼロにはならないと。

つまり、やっている以上は常に指定管理料という形の中では町が負担をして維持をしてこう、と。実態というのは大半、多くは町内外からするというふうになった。

町長:

今はぽん・ぽんゆの話が出てると思うんですけども、基本的にはですね、やはり町の観光施設として多くの皆さんに、やはり標茶に来ていただくための投資だと思っています。

そこに一定程度の先行投資をして、指定管理という形を使いながら、これま

では実は第三セクターという形で町が直営に近い状況で運営をしていました。そこが破綻をして、新たな形ということの反省の上で、民間の活力、ホテル経営のノウハウも持っているところが今回手を挙げていただいたという形であります。

それで、地元の利用が少ないんで、ということが一番経済効果としてどうなんだ。ということですが、例えばそこで働いている人たち、今十何人か標茶に来て住んでいただいていることとか、資材の調達を含めてですね、一定程度かや沼の部分、今まだちょっとそこまで出してないですけども、経済効果は非常に大きいんじゃないか、そんな風に思っていますし、それからよそから来ていただいている部分が非常に多い、注目される、という意味では、今までにない施設が標茶にあるということは、僕は非常に大きい価値があるのだろうと思っています。

ただ、心配されているのが、町民の利用が少ないということについては、先ほど副町長も言いましたけれども、1月から3月に低料金でですね、宿泊料金を町民限定で設定していただいたり、入浴の無料の日もですね、百何十人、実は町民の皆さんに利用していただいたということも聞いておりますし、さらに10月にまた同じような設定も行いますし、そういったことでですね、町民の皆さんの利用については引き続きですね、力を入れていきたい、そんなふうに思っていますので、ぜひ皆さんもですね、ぜひ今まで私も含めてなんですけども、標茶に来たお客さんに安心しておもてなしをできる施設ということで、私はぽん・ぽんゆは非常にいろんな人に注目されているのかなと思っていますので、そういった形で町民の皆さんにもですね、ぜひ利用していただければ、そんな風に思っていますので、よろしく願いいたします。

参加者⑦さん:

ぽん・ぽんゆについて今いろいろ質問が出たんですけども、一般企業に対して年間 3,200 万というのはちょっと多いような気がするんですよね。家賃とかそういうのどうなってます。

壊れた修繕費とかそういうのが起きたときどういう話し合いになりますか。

副町長:

家賃はいただくことにはなっていません。あの施設を使って運営をしてくださいとなってます。修繕費については壁が壊れた等については町が負担していることになっていきますけども小さなものについては指定管理者のほうでやってくださいと協定の中で書いてます。

参加者⑦さん:

だから、なおさら年間 3,200 万とはちょっと桁が違うんじゃないかと思えますけど。契約してしまったんなら、仕方ない部分もありますけど。その波及がやっぱり町民になると、参加者④さんが言ってくれた補助金等の話なんですけど、やっぱり佐藤町長が言う標茶町は人口の割に面積が広い。だからお金の必

要がある。

それと一緒に、やっぱり本町に比べれば磯分内、やっぱり人口の割に少ないです。

その電灯やなんかだって今 LED 化しなきゃならないのに、年 100、2、30 本あるんですけど、年間 5 本、6 本しか取り替えることできないんですよね。

それでまた補助金さげられるとか、逆に上げてほしいぐらいなんですよ。

その点どう考えているのかちょっとお聞きします。

参加者⑧:

私もあの破綻の原因は、やっぱりぽん・ぽんゆだと思ってるんですよね。

それで、あの、やっぱりそういうものを本当は、なくすのはなくしてほしいです。

町民を相手にしないで富裕層だけを相手にすればいいという話もずっと聞いてたんですけどね。

だからそれであれば、町民にやっぱり関係ないあれじゃないですか。

ほんとに破綻の原因はそこにあると思うんですよね。ぽん・ぽんゆを作ったために。

だから、本当にそれを作る前に、みんな町民の意見をもっと聞いて、賛成ですったら作ってくればいいのに、作る時にはそういう話をとっても町民にしないで、こういう赤字、破綻なんだなといって、こういう会を町長も含めて話してくれるのは多分初めてだと思うんですよね。

それ以外はみんな副町長が回答をされていて、町長知らなかったんですよね。

私、何回か出してもらったんですけど。だからそういうので、やっぱり考え方が最初から甘いと思うんですよね。

みんな出来上がってから破綻したからどうだこうだっておかしいと思う。

参加者⑨:

今と関連なんですけど、参加者⑨ですけど、まず今日の集まり、今頃になってやっているのはどうなのかなって。

まあそこから始まるんですけども。佐藤町長になってから 8 年近くになるんですけども、2 期やって、その反省点って。

こういう説明をやらなきゃならなくなった反省点、どうこうなってしまったから、今さらこういう説明して、もう貯金も底をつくような状況になってから、町民に説明してるんで、今のさっきの話じゃないですけど、この今の AI の進んでいる時代にね、この少子高齢化、人口減少になる。そしてサービスはだんだん良くなきゃなんない。これ、選挙の度に言ってる。

町民が住みやすいまちみたいなのを言ってますけどね。こういうのはもっと早くにわかるはずなんですよ。こういう状況になるのも。

それが毎年のようにやっぱり町政懇談会とか、いろんな状況説明をもう少し町民に早めにやって、徐々にこういうふうになるからっていうことを、もっと早めにわかって、説明会をやってほしかったなと。

その反省をしてもらいたいのと、それからあの、まあぽん・ぽんゆのお話も

そうなんですけども、何か大きな事業をやる、町でやる場合に、町民に説明するのと同時に、アンケートを取るみたいだね、住民投票じゃないですけど、その町民の意見をもっと幅広く聞いて、やってくべきだっていうふうに感じてるんですけどね。

そういうことが今までなかったことと、そういう反省点を踏まえてですね、今日の説明のあった財政改革ですか、5 年間にかけてということ。

これをやっぱり言われてもね、果たして今まで佐藤町長がやってきたことが何度これから考えを直してっていうことを言ってもね、具体的なことを書いてないんですよ。

病院はどうするとかね、あるいは大きさがどういう形にしていくんだっていう、そういう具体的なものが見えてない中で、ただこういう風にしてきたいですみたいなことを言ってね、財政をそういうのも良くしようと。

あるいはこれだけ、今このようになってから町民に負担をかけて我慢してもらってとか、命に関わるね、生活に関わらないようなものはもうサービスはやめていきますよ、のようなことを言ってね。

これぎりぎりになってから言って、この 5 年間の計画だってだから、果たしてどんなものなのかなって、信用性が全くない。

これ、本当にこの状況でいいのかなっていうのはね、まあ感じるわけですよ。

ですから、今までなぜこういうことをやってこなかったかっていうのをね、ちょっと聞きたいんですよ。

町長:

はい、わかりました。

今まで実は何もやってこなかったわけじゃなくて、一番最初の、行政改革の大綱の話で申し上げましたけれども、令和 2 年度の行政改革、第 5 期の行政改革の中心は、実は行財政改革です。

標茶町は実は先ほどから申しました通り、非常に厳しい行財政の状況の中で、実はその町民要望を、かなりいろんな要望が上がってきますので、それを可能な限り実は実現するという、どちらかというと綱渡り的な、実は行財政運営を実はずっとしてきています。それが実は現実です。

それで先ほど言ったように、一定程度、基金を、予算を組むのに、例えば毎年、十何億の基金を取り崩しをしながら、年度の途中で交付税が入ってきたり、有利な補助金を使ったりしながら、その中で戻せるお金は戻して、で、年度末に戻すという作業を実はやってきました。それは事実です。

ずっと私 20 何年前も、財政担当課長をやっていた時期もありますので、その時期とほとんどやり方は実は変わってないです。

何でこういう風になったかというと、実はやはり新型コロナ以降の話です。

新型コロナ以降になって円安になって、さらに資材高騰等が続いて、それが短期間で終わればよかったんですけども、それが毎年毎年同じような状況の中で続いて、戻せるお金がだんだん減ってきているという状況です。

で、その中で、例えば先ほどから出ている病院会計、それからやすらぎ園、

牧場等、それからいろんな国民健康保険とか上下水道とか、そういった会計を維持するために、実は一般会計からお金を入れて維持をするというのが実はたくさんあります。

そういったので、なかなかかなり厳しくなってきた、今年もさらにイランの今の状況の中で、さらに石油関係の資材が上がって、で、さらに去年は増額の人事院勧告がありましたので、それに合わせて職員の人件費、いわゆる働き方改革の中で、しっかり職員として働いてもらうためには、職員の給与もしっかり確保しながら働いてもらうということをしっかりやっていきたいということでやってきてますので、非常に厳しい状況です。ただ、説明が遅れたということに関しては、昨年実は行政改革推進室を設置して、より具体的な改革を作りますということを皆さんに、お話をしてですね、それができた段階で、より具体的な話を皆さんに直接するのが一番だろうなということで、実は説明が遅れたという、言ってしまうとそうかもしれないんですけども。

おそらく説明だけで、「大変です」ということを説明するだけでは、恐らく皆さんじゃあどうするんだとかという話を中心なんだろうなということで、ただ、今日も具体的な話を少ないんじゃないかという話も今お話はあったんですけども、例えば病院にしても、いろんなことにしても、これはですね、実は今日ここで病院こうしますというふうになるとですね、実はあの、議会での話も実はあります。

要するに、一方的に町の方でいろんなことを決めないで、選択肢をいろいろ出しながら、町民の意見を聞きながら、実はこの説明会をやっていただきたいという議会側のお話もありましたので、ある程度選択肢をいろいろ出しながら、町民の皆さんの意見を聞きながら、最終的に方向性を決めて、議会にさらに相談をしようというのが今の実は状況なんですね。ですから、もっと早く言えば、もちろんそれはやりたかったんですけども、やるにしても一定程度方向性が見えなければですね、皆さんに説明しても理解されない。

じゃあどうするんだって話が当然その中で出てきますので、今可能な範囲でですね、直近で今やれるものは今ここだけというのも、それが遅いと言われては、それは私の責任であり、大変皆さんには申し訳ないと思っておりますけれども、そういう状況の中で今日に至ったということで、ご理解をしてもらうしかないんですけども、引き続きですね、皆さんからいろんなご意見いただいていますので、その中から方向性を決めて、できるだけ早くその解決の方向性を明らかにしながら次に進んでいきたい、そのように思っていますので、回答になっているかどうかちょっと足りない部分もあるのかなと思うんですけども、今の状況としてはそういう状況だということでご理解をいただきたい、そのように思っています。

参加者①:

私ね、コロナのせいにしないでほしいと思います。コロナのせいにしないで。

参加者⑧:

いいですか。人口減少、これからどんどん減っていくっていうのに、今なんかみどり保育園をなんかやってますよね。

だからそういうこと言ってるのに、そういう新しいものを。財政難なのに作っていつているのは町民とかに相談なしに。

町長:

みどり保育園につきましては、今から 5、6 年前からプランとしてはあった施設です。

町の中の形態としては、やはり橋の右と左というか、町が大きく分断されている中で、さくら町側に以前あったさくら保育園と町立幼稚園を合併するような形で施設を先行して実は新しくしていました。

みどり保育園につきましては、その橋のこちら側ということ、常盤町、川上町、開運の部分の中心の子供の施設として今現在建てているところであります。

ただ、今ご心配なのは人口減少の中でということももちろん言われるかもしれませんが、一定程度やはり占める人口が全くゼロになるわけでもありませんし、有効に活用しながらいける施設だと、そんな風に思っていますのでご理解をいただければと思います。

参加者⑥:

もしできましたらですね、町の皆様が納得できない、公共でいうと、遊具、遊びの施設、温泉ですとか、いらないなと思うものでお金が削られて町立病院をなくす、消失するとか、小さくするという事になれば、私は本当に最近になって医療関係者として、本当に忸怩たる思いでしているわけですので、そういう優先順位として少しでも町の皆さんのお役に立てるものを何とか残していただきたいのと、あともう一つは、議会と役場の方で勝手に決められて、私、次にもうここはこうなるっていうのを後で伝えてこられるのはちょっとごめんこうむりたいとそれだけお伝えさせていただきます。

医療関係者として、私にやっぱり支えていかなければいけない人たちがいますし、私も力になりたいと思って受けたものですから、それを踏みにじるような、そういう行為というのがもう私は決してやっぱり許されざるものだと思っています。

今でもこうやってすごく赤字だから町に大事な、もうライフラインだと思っています。

自分としてはそこまで自負まだ持てるくらい、貢献できてるとは言ってませんが、数年間勤めて働いておりますから、どれだけ頑張ってきたか、そういうことはわかります。

そういうものを踏みにじて勝手に決めていただく前に、やはり順序立てて伝えていただきたいと、これだけはお願いがあります

町長:

あの、ちょっと今、私と町立病院との中で話をしていることを、もう実はち

よっと申し訳ないと、理解されないのかなと思うんですけども、ここに来る前に町立病院と実は病院の方向性については別に話をする場を持ちながら、こういう選択肢も含めてお話ししてもいいですか、ということをご相談して、一方的に病院をなくするとか、そういう話は一切していませんし、町立病院の考えも尊重しながら実はやってきていますので、皆さんの不信を持たないようにしていただきたいと思います。

その点のご理解をいただきたいと思います。病院は、なくす気は私は一切ありません。

ただ、今も赤字の部分何とか縮小しながら、今の医療体制を維持するっていうのが私の仕事だと思ってますので、選択肢をいろいろ院長にも提案していただきたいと思います。

こういう選択肢、もしあるならいろんなことを言ってくださいということをお話してますので、その中から具体的な形を方向性をまた調整しながら、最終的にこういう形でどうですかというお諮りをする予定でいますので、その時にはまた皆さんになんらかの形で分かるような形を示していきたいと思えます。

参加者②:

病院に関連して。いいでしょうか。

あの、実際はわかりませんが、議会だよりでも、実は町立病院の雨漏りがすると。そのような問題がありました。2度もありました。

先月でしょうかね、何かの回答をするのでも、何か優先順位があって検討させていただくみたいな、そのような回答をいただきました。

優先順位というのは、1丁目1番地でやらないといけないだろうと僕は思っております。

どの辺のどういう雨漏りなのかはちょっと確認をしておりますけれども。当然、公然とした質問でありますので、何はともあれ、一番初めに新しいものとかどんどんというよりも、あるものをきっちりと整備をする。まして町民の目に触れる施設でもあります。

ぜひその雨漏り、早急に改善をお願いしたいと思います。

町長:

この病院の雨漏りについては私も十分理解しています。

ただ、いろいろこれまでも病院の改修、一切手をつけてないのではなくですね、例えば浴室の改修とかですね、順番に一番緊急性の高いものから実はやってきてますので、決して疎かにしているわけではありませぬので、ご理解ください。十分理解しています。

行財政改革推進室長:

すいません、あのお時間過ぎてるんですけども、先ほどからあのちょっと挙手をしていただいている方いらっしゃいましたので、もしよろしければもう少しお時間の方を許していただければと思うんですが、よろしいでしょうか。

参加者⑩:

貴重な時間いただき、ありがとうございます。

あの、5年後の目標っていうもの、具体的なものは別としても、それを設定しないことには、役場職員含めて地域住民、これ足並み揃えていくにはその部分が必要かと思うんですけれども、その予定はないですか。今も作ってないのか。

町長:

金額がどうのこうのというのは、簡単に言うと、要するに基金に頼らないで財政運営するというのが一番だと思います。

結局それを頼っていると、いつまでも基金に頼っていて、何かあった時にそういうふうにしてマイナスせざるを得ない。

さらに借金が増えるという形ですので、そこから 1 日も早く脱却したいというのが実は目標です。

参加者⑩:

だから、あの、職員が金がない、金がないからできないよというそのね、それをまずなくさないとならないし、先日も 3 月ですけども、うちで役場というよりも衛生センターに、重油 2,000 リッター入れました。利益として 280 円いただきました。280 円。

これをなんとかもう少し、この時なんで、なんとかしていただきたいと、ある課長にお願いしましたけども。

もう先にもう請求したものですから、それで払いました、と。お金もないんですできませんと。

標茶町ってそういう助け合いをする人たちの未来のために双方が足並み揃えて行かなければこの窮地、脱しないと思うんですよ。

私としても 90 年以上やらせていただいていますけども。

継続することが地域のためになると思って頑張っていますし、皆さんの、役場も含めて協力してもらっているから、頑張って苦しい時、最悪給与等も削減していますけども、私も苦しいです。

年齢が高くなるにつれて働く時間がどんどんどんどん増えている。給与も。

毎回必ず取れてるわけじゃないです。年金も。もらってはいますけども、そのままだっか会社に行ってる。

やっぱりそれは店を何とかして継続して地域のためにしたいということもあるからやっただけなんで、そういう気持ちを町全体で持っていないことには本当に困ると思うので。

この辺も精神論かもしれないですけども、その辺しっかり押さえながら進めていただきたい。それでみんなが町長を含めて協力していこうと頑張ろうというふうにしないとまずいと思います。

よろしく願いいたします。

町長:

いろんな町民の皆さんからお話を聞いた時に、実はもう職員の中にも、全員ではないと思うんですけども、お金がないからできません、いきなりお断りをされたということは、実は私も直接聞いています。

職員はそういったことがないように、まずしっかり話を聞いて代わりの方法がないのかとかですね、いろんな方法をですね、職員としてもしっかりアイデアを出して考えてほしいということを言っていますので、ぜひもしまたそんな機会があったらですね、私に直々に言ってください。

その職員、誰からこういうこと言われたということがあれば言っていれば、私はしっかりその職員に対しても指導しますし、そうでない別の方法がないのかとか、いろんな考え方もあってですね、皆さんで協力し合えばいろんな解決の糸口が見つかると思いますので、そういったことも含めてですね、忌憚のないご意見ですね、町長室いつでも空いていますのでご連絡いただければと思います。

参加者⑪:

あの一、結構農協の中でも標茶の農協って大きな農協だと思うし、病院もそうですね。

横の繋がりをもっと強く持って、まあ、ぽん・ぽんゆも。

あと、この間、磯分内でも映画の撮影ありましたけれども、そういったものもいろんなものを利用して、人が通るだけでも、ここ標茶に来てくれるような。

それで、もしかしたらそのうちの 100 分の 1 でも標茶の方に移住してもらえるような政策をなりふり構わずやっていただきたいなという風に思いますね。

あの鶴居と弟子屈に負けるのは嫌だって思います。まあ、そこもその 2 つも利用しながらじゃないですか。頑張っていたきたいと思います。

よろしくお願いします。

町長:

はい、ありがとうございます。

参加者⑫:

参加者⑫です。行財政改革に取り組んで経費の方は減っているっていうのかもしれないけど、公債費の方はね、右肩上がりみたいな状態なんですけど、ピークっていつ頃になるんですか。

副町長:

お手元の資料で公債費の額ですね。

令和 11 年が今のところピークで、それはこの後新たな作業をしない前提であるので何か突発的なことがあるときにはそれから後ろにくるということは可能性としてはあるんですけども、今は年間 15 億の借金があるというのは

11 年からなくなるという予想です。

参加者⑧:

いいですか。町長と副町長と教育長の給料を下げるって書いてるんですけど、どうですか。どのぐらいの。

町長:

3 月の議会で私の給料を 3 割、副町長が 2 割、教育長の給料を 1 割カットするということで、4 月の給料が簡単に言うと私の給料で 25 万ぐらい、減ってます。

※ 8

参加者⑧:

それ毎月ですか。

町長:

はい、毎月です。ボーナスも減ります。一応選挙にもありますので、任期中の 10 月までの期限つきの条例にはなっています。

副町長:

町長はいま 20 パーセントと言いましたけれども、私は 16 パーセントで、額にすると 11 万円ぐらいですかね。

それから、えーと、手当も減るし、それから、減らすことにしましたし、それから町長は触れませんでしたけれども、給料が減ると退職金も減るということになっています。

参加者⑬:

すいません。今の関連になるかもしれないんですけど、今はその予算の給料を減らしたという。

で、まあ職員の方の給料を減らせとか、私は言いません。やっぱり大変な状況ですし。

今なんか聞いたところだと、若い世代の 12、3 人ぐらいが退職されてしまったという風な話も聞いてますけれど。

まずその前回の議会だよりというか、その中にある議員さんが、町議さんが、その臨時職員が、パートタイムになって給料減額っていうか、何かそういう風なことがあれば。

そういうのはまあ避けたいというか、やめるべきだというようなことを言われてたと思うんですけど。

まあそういう一般的なことをいう方々がいたら、給与もらいますよね、役員報酬。

※ 8 教育長は 8 %

そういうものに関しての答弁というのではないですかね。議員を減らすとか、自ら自分たちも。したら皆さん働いてるわけですよね。

別にそれを職業として生活してるわけでないとは思っているんで、そういう人々もやっぱり見直し、全体でのそういうものも自分たちからその議員さんも含め教育委員、農業委員、今本当にそれだけの人数が必要なのかとかっていうのを議論されたことってあるんですかね。これだけ人口が減ったり、いろんな農家も農家戸数も減り、場所によっては農地の動きなんてだんだん動かなくなってる。

そういう中で今まで通りの人数で本当に、えーなんか町の負担が多いんじゃないか。

これから若い人たちがやっていく。うちも。あ、名前すいません。参加者⑬です。うちもやっぱり次の世代が今頑張ってるやろうとしている。まして今いろんなものが上がってきていて、本当に経営大変だ大変だっていう中でやってる中で、やっぱり目に見えてそういうものも、町の関係機関、関係者、そういう人々も頑張っているから私たちも頑張ろうっていうふうに。

だんだん何か若い人々がこんなもん数減らせばいいやって簡単に言うてる。その辺どうなんですかね

町長：

今あの、関連して、あの、議会のことをおっしゃられたのかなと思うので、そのあとに今のご意見については記録を取って、議会の方に議長にお伝えします。

それ以降はあとは議会の自らの組織ですので、自ら判断されると思いますので、それ以上は私のコメントはちょっとしづらいです。

(5) 開会あいさつ

(6) 開会 午後 9 時 00 分